

(様式2)

学校関係者評価報告書

愛媛県立松山工業高等学校
学校番号 24

評価実施日		令和 5年 2月 21日 (火)	
委員	氏名	所属等	備考
	菊池 伸英	同窓会会長	欠席
	大北 謙治	同窓会顧問	
	吉岡 和哉	P T A会長	
	日野 繁	学校関係者評価委員	
	中川 智之	学校関係者評価委員	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 今年度の最終評価について</p> <p>(1) 学習指導 効率を上げた教育活動に取り組まれているようだ。学習状況の説明の中で、E I L Sの活用について述べられていた。E I L Sは生徒にとって、実施されたテストの結果がすぐにわかり、自分の力がどの程度のものなのかを把握できるそうですが、何かデメリットはありますか。 (全日制・定時制)</p> <p>(2) 生徒指導 松山市内での交通事情から考えて、生徒の登下校時における交通安全教育は重要である。実際の事故等の状況はどうか。 (全日制・定時制)</p> <p>特別指導を行った事案は、今年度は0件という事で素晴らしいと思います。最近、深刻さが増しているSNS問題等は大丈夫なのでしょう。ネットトラブルは、かつての個人におけるマナー違反が後々に過ちとして出てきたり、今と昔の生徒の個人情報为世界に広がる大変な問題になっていく恐れがある。 (全日制・定時制)</p> <p>(3) 進路指導</p>	<ul style="list-style-type: none">・ E I L Sは生徒にとって、学習の達成感を味わえる工夫がなされている。しかし、学問上で必要とされるアナログ的な問題（例えば、計算用紙、数ページの資料の掲載におけるパソコン画面の問題、新たな別解法の確認ができない等）があり、デジタルとアナログのバランスを考えた授業改善が望まれる。・ 初めての自転車通学になる1年生の事故が多い。ただし、全日制では加害者側の事故はなく、事故の1/3は自損事故であり、2/3は被害者側の事故である。命にかかわる問題なので、登校指導・ホームルーム活動・交通安全教室等のあらゆる教育活動を通して、生徒たちの交通安全意識を高め続けていく。・ 全日制では校内でのスマートフォン使用は原則禁止しているが、今まで通りにスマホマナー、ネットモラルやネットリテラシーについての啓発を家庭と連携して行う。また、我々が考えつかないトラブルも発生する場合もある。手遅れにならないように、その都度、新しい対策を考えていく。そして、ネットトラブルから生徒を守るための継続的なサポートに尽力する。

30年位前は松工から進学する生徒はほとんどいなかったが、今は30%以上の生徒が専門学校等も含めて進学するという。そうなると例えば、進学者が増えると、成績上位者の就職希望生徒が減少するかもしれない。今後、松工への志願者数を増やし、レベルの高い層を多くしていく必要があるのではないか。(全日制)

(4) 特別活動

松工の体育的・文化的・生産的な部・同好会のいろいろな方面での活躍は素晴らしく、他の生徒たちの励みにもなっている。県大会以上の好成績以外に、すべての部・同好会の活動状況やその成果を知りたい。(全日制)

(5) 工業指導

求人を出す側としても、今後も生徒たちに皆勤を推奨してほしい。また、松工は資格の取得しやすい環境ができており、素晴らしい成果を上げている。その中で、就職した卒業生の離職防止のために、就職後の目標を持たせる教育活動も必要であり、そのためにも企業との連携が必要だ。愛媛県人材不足問題があり、特に土木技師不足は深刻である。(全日制)

(6) 人権・同和教育

生徒自ら人権感覚を再確認することのできる松工人権宣言を、生徒全員に周知させておられることは素晴らしい。生徒たちの人権感覚を維持させる取組はいかがなものか。(全日制)

(7) 環境整備

適切である(全日制・定時制)

・ 現在、「高校から就職」という考えが減っていることも事実であり、逆に考えれば60%以上の生徒は就職希望である。これから求められる松工は、「就職にも、進学にも強い学校」であろう。県内の人材不足を解決していくためにも、志願者数を増加させることで、本校生徒の受け入れ人数を増やす。そして、将来の技術者として実践力のある好人材の育成はもちろん、進学に特化した教育カリキュラム等、質の高い教育活動を目指していきたい。そのためにも、まず志願者数を多くしていきたい。そのための取組に努める。

・ 松工ホームページでも、いろいろな部活動等の内容を発信している。来年度も学校ブログ等での各部・同好会の活動状況の紹介を、こまめに、積極的に行う。

・ 企業見学・マッチングフェア・インターシップ・匠の技教室等、多種多様な企業との連携を充実させているが、今後も生徒たちの将来の社会人へのサポートを大いに続けていく。その中で、県内に残る技術者数増加のために、いろいろな職種のスペシャリストを特別講師とした特別学習活動等を実施している。今後も県内の素敵な職人魂の刺激を生徒たちに与え続けていきたい。また、本校土木科では、県内に残る技術者数増加のために、現在の若者に合うキャリア教育の新しい取組を考え、チャレンジしていく。

・ 人権委員会では、人権委員学習会やクラッシーで配信している「人権だより」の作成、特別支援学校との交流等を通して、まず自らの人権感覚を磨き、ホームルーム活動等でクラス内の生徒たちの人権感覚磨きをサポートしている。全校生徒への取組として、「人権を考える日」に各テーマについての感想や考えをまとめたり、人権作文・人権標語・人権ポスター・人権絵葉書の制作等を通して、人権意識を高めている。

コロナ感染拡大防止等を考慮して、現実に適した目標ができつつあるのではないか。
(全日制・定時制)

3 説明・公表について

学校関係者評価委員会の資料は適切なものであり、各課の説明も丁寧である。(全日制・定時制)

4 学校運営への提言

地域や企業と協働しながら、生徒一人ひとりを見つめた学校運営に取り組んでほしい。
(全日制・定時制)

・本年度の数値目標を達成しているものについては、今後も維持できるように、そのノウハウを若い人たちに継承させていく。そして、新たな目標を考えていきたい。

・本校は、卒業生や地元の企業、地域の方々から大切にされている。生徒たちも松工で大切にされていると感じる学校になるよう継続的な取組を考え、実践していく。